

猪名川河川レンジャーNews Letter

TOPICS

- ・河川レンジャーと地域との連携「数珠つなぎインタビュー」
- ・活動報告：「水辺まつり」に参加しました！
- ・猪名川の外来植物について
- ・お知らせ：新しい河川レンジャーの紹介、今後の活動予定

2015 vol. 1

10月発行

第4回 数珠つなぎインタビュー

猪名川流域の活動団体を数珠つなぎ形式で紹介し

今回で第4回をむかえる数珠つなぎインタビューは、「NPO法人野生生物を調査研究する会」の飯島昌さんに応じていただきました。「ひとくらクラブ」を対象とした水生生物の観察の講師をされた後に、お話を伺いました。

◆水生生物観察会

まず最初に、川に生息している生物の採取方法を実演され、その後、川に入り生物を採取し、採取した生物の名前や特徴を教えてくださいました。

水生生物の採取した生き物の説明



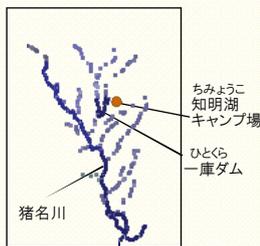
採取できた生物一部



水生生物の観察

実施日：2015年8月9日(日)

場所：知明湖キャンプ場
ひとくら
(一庫ダム上流)



猪名川流域図

◆インタビュー



写真左：飯島昌さん
第3回数珠つなぎインタビューの「猪名川漁業協同組合」さんからご紹介いただきました。

「NPO法人野生生物を調査研究する会」は、どのような活動をされているのですか

(飯島) 生物と人の暮らし、のかかわりをテーマに出版物を作ったり、教員を対象にフィールドにいる生き物を子ども達に教えるセミナーを行っています。また、里山の保全活動などもしています。

猪名川流域の特徴と良いところはどこですか

(飯島) 猪名川には、イシガメなど昔からいる大事な生き物が残っているのがよいと思います。他の川と比べて河口までの距離が短いため、人手が入るときは、生態系が変わらないように注意をしていく必要があると思います。

また流域の中には、多田銀山など多くの鉱山があり、銅の精錬を一回するの、多くの木を切りました。そこに、コナラやクヌギなどの二次林が形成され、カブトムシやオオムラサキ、ミドリシジミなどの昆虫が生息する里山ができたことがよかったです。

希少な種であるエドヒガン(桜の一種)も生育しているのも特徴です。

「このようないろんな環境がパッチワーク的にあることが大事で、そのような環境が猪名川流域にあります。」

「若い方にバトンタッチすることで困っていることはなんですか」

(飯島) フィールドを使って子ども達に教えることができる人が少ないというところです。

虫、魚、植物などなんでもよいので、子供たちと一緒にフィールドに出て、どのような生き物がいるのかを知ることが大切だと思います。

子ども達に関心を持ってもらうにはどうしたらいいですか

(飯島) 一つ目は、衣食住に関することをテーマに体験したらよいと思います。野草、どんぐり、魚などを食べてみることです。

二つ目は、昔の人がやってきたことをきっちり残しておくことが大事です。野草を食べる、草木染めをするなどです。

◆河川レンジャーの感想

飯島昌さん、ありがとうございました。先生のお話をもとに、今後の活動に活かしたいと思います。

猪名川は上流・中流・下流とそれぞれに特色のある川ということが分かりました。

私たちの身近にある川には、楽しみながら体験をする場所があります。お天気のよい日に、お弁当を持って、川遊びで楽しみたいですね。

次回の数珠つなぎインタビューは、「川西自然教室」さんです。

猪名川河川レンジャーに関するお問い合わせは、下記ウェブサイト/メールアドレスをご利用頂くか、猪名川河川事務所 管理課までご連絡下さい。

■猪名川河川レンジャー ウェブサイト：<http://iranger.web.fc2.com/>
■猪名川河川レンジャー メールアドレス：inagawa_ranger@yahoo.co.jp



猪名川河川事務所 管理課

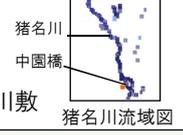
池田市上池田2丁目2番39号
TEL:072-751-1111(代表)

第12回水辺まつりに参加しました！

水辺まつりは、猪名川・藻川の清流復元フォーラム、水辺まつり実行委員会、が主催となり、毎年開催しています。



開催日：2015年9月13日(日)
場 所：藻川 中園橋下流 河川敷



猪名川の外来植物について

「外来植物」という言葉をよく聞きますが、猪名川にどれくらい生育しているのでしょうか。また、河川敷で見つけたときにどうすればよいのでしょうか。

●外来植物とは
人間の活動によって、他の地域から持ち込まれ野生化した植物です。

●外来植物が増えることで、どんな影響があるのですか

- ①繁殖力が強いため、在来植物の生育場所を奪ってしまいます。
- ②在来植物の生育場所が少なくなるとそれを利用して動物、昆虫や魚にも影響を与え、生態系が変わります。

このように、一度、生態系が変わってしまつと、本来の環境を取り戻すことが難しくなります。

●猪名川にどれくらい的外来植物が生息しているの

猪名川には319種の植物が生息していますが、その約35%が外来種です。また、「外来植物の群落を占める面積割合」は陸地部分の約19%を占めています。



現在、猪名川で確認されている外来植物の中で、特に繁殖が激しい、アレチウリ、についてみていきましょう。

*注1 平成13～17年「河川水辺の国勢調査」より
*注2 平成5～11年「河川水辺の国勢調査」より

「アレチウリ」について

アレチウリは、問題を引き起こす外来生物であるため、「特定外来生物」に指定されています。

*注3 特定外来生物は「特定外来生物による生態系にに係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」により、特に地域の自然環境への影響が大きい生物を指定しています。

●ウリ科 一年草

●原産地：北アメリカ

1952年(昭和27年)生育が確認された。輸入大豆等に混じって国内に侵入したと考えられています。

●人や他の生物への影響

周辺の耕作地に侵入し、農作物に被害が起る恐れがある。つるを伸ばして一面を覆うように繁茂するため、ほかの植物に届く光を遮り、在来種を枯らします。

「アレチウリ」の対策

私たち猪名川河川レンジャーは、地域住民と連携しアレチウリの除去をしています。除去をするときは、種子ができたものは袋に詰め、国土交通省猪名川河川事務所と連絡し、回収・処理の依頼をします。

次々と時間差で発芽するため、できるだけ小さいうちに除去するのがよいといわれています。

似た種との見分け方(葉っぱの違い)



【参考】流域ネット猪名川発行「猪名川の外来植物ハンドブック」

・国土交通省猪名川河川事務所発行「猪名川の外来植物対策マニュアル」(平成25年3月)

お知らせ

●新しい河川レンジャーの紹介
中芥河川レンジャーからコメントをいただきました。



なかさいたかひろ 中芥 河川レンジャー

コメント

川は昔から地域の皆さんの生活の場であり、憩いの場であり、水と自然にふれあう場であり、また、ある時は繰り返される洪水との闘いの場でもあります。

猪名川の歴史・文化は、川と人々の長い時を経て育まれてきました。地域で育まれた歴史・文化に学び、水と自然のふれあいをとおして、地域の皆さんと行政が一緒になって取り組んでいける、「安全で快適な川づくり」につながる活動をしていきたいと思えます。

●今後の活動予定

猪名川のい〜な！ 作品展を開催します！
作品展日程と会場のご案内

日程	会場
2015年 11月30日(月) - 12月4日(金)	イオンモール伊丹 1階スカイコート(伊丹市)
2015年 12月11日(金) - 12月15日(火)	イオンモール猪名川 3階中央エスカレーター前(猪名川町)
2016年 1月18日(月) - 1月22日(金)	池田市役所 1階ロビー(池田市)

猪名川のすばらしさや大切さを自らの手で発信いただき、猪名川の良さを知ってもらうために、みなさんから応募していただいた写真と絵画の作品展を開催します。
猪名川河川レンジャーウェブサイト
(<http://iranger.web.fc2.com>)で最新情報を更新しています。

